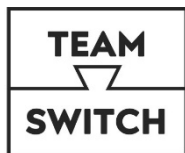


報道関係者各位

PRESS RELEASE

令和4年8月18日
一般社団法人 建設ディレクター協会
京都サンダー株式会社
<https://kensetsudirector.com/>



女性や若手が活躍できる職域「建設ディレクター」
チームで成果をつくる仕組み「TEAM SWITCH」

■現場のニーズから生まれた新たな職域「建設ディレクター」とは

近年自然災害の激甚化が問題になっていますが、建設業は公共の建設物や道路などを建設するほか、災害時には地元業者として先駆的に復旧作業を行っており、日々対策業務に備えています。今その建設業界も人手不足に陥っており、55歳以上の技術者は業界全体の35%を超え、2027年には多くの人材が業界を去ることになります。昨今の新卒採用数は4万人と、全産業71万人の6%に留まっており、三年以内の高校新卒者の離職率も高く、半数が離職しています。離職率の高さには残業の多さがあります。技術者は昼に現場作業にあたり、夜は事務所で提出する膨大な資料作成に取り掛かります。資料作成量は技術者業務のおよそ60%にあたり、書類作成業務が残業の多くの原因になっています。

国は2024年から働き方改革として月45時間を超える時間外勤務を禁じますが、残業時間を減らすためにも仕事の分担や移行が必要です。そこでバックオフィスから現場を支援する職域として膨大な書類業務作成や、技術者の一部の仕事を担うのが「建設ディレクター」です。

建設業界は他業界に比べ、女性や若手の比率が少ないのも特徴です（女性比率、業界全体の16,7%）。現在、建設ディレクターは受講生のうち70%が女性、65%が30代以下と若手の人材が活躍しています。これには建設ディレクターの業務が、ポータブルスキルと成りえるITスキルとコミュニケーションスキルを必要とし、かつ社会的意義のある職域であることが、女性や若手のキャリアパスと合致していることがひとつだと考えられます。建設ディレクターは、業界に女性や若手入職の機会を起こし、社会には新たな雇用創出の可能性を生みます。

■チームで成果をつくる仕組み「TEAM SWITCH」

建設ディレクターは技術者の負担軽減に繋がるだけでなく、情報を共有することから、社内全体の可視化や環境整備が同時効果として現れます。

今回（一社）建設ディレクター協会がリリースする「TEAM SWITCH」プログラムは、現場とバックオフィスの業務連携をスムーズにし、チームで成果をつくる体制を定着させます。技術者の業務範囲の再設定や役割を明確にして、建設ディレクターとのワークシェアリングを実現する仕組みづくりを提供します。

（このプログラムは令和3年度中小企業ものづくり補助金のビジネス構築型に採択され全国地域の中小建設企業30社のもと実践、効果検証したプログラムになっています）

他業界では新型コロナウイルスの流行で、急激にタスクシフトが進んでいます。建設業界も従来の仕組みを柔

軟に組み替えて社内の改革を進めていくことが業界改革の一步に繋がることにあるでしょう。

■「TEAM SWITCH」プログラム 申込について

建設ディレクターは（一社）建設ディレクター協会が主催する育成講座受講後に取得できる資格です。

「TEAM SWITCH」プログラム（期間6か月から申込可能）の活用は、建設ディレクター育成講座（48時間）を受講いただいた企業が対象となります。詳細は当協会までお尋ねください。



バックオフィスと現場で活躍する建設ディレクター

一般社団法人 建設ディレクター協会／京都サンダー株式会社

〒602-8019 京都市上京区室町通下長者町下ル近衛町3 3

TEL：075-431-0011（平日9：00～17：00）



担当：田辺、石束

お問い合わせ・取材受付：<https://kensetsudirector.com/contacts>